

第3章 森林整備と林業振興に向けた施策展開

施策展開の基軸

- ◆ 都民にとってかけがえのない共有の財産である森林を、次世代に健全な姿で引き継ぐためには、林業の低迷によって多面的機能を十分に発揮できていない人工林を、将来を見据えて適切に整備していく必要があります。
- ◆ 林業は依然として厳しい経営環境にあることから、整備の推進に当たっては、人工林のおかれた自然的、経営的な条件等を考慮し、目指すべき姿の指針を定め、限りある労力や財源等の選択と集中を図ることが重要です。
- ◆ 林業が地域振興に貢献する産業として、着実な成長を遂げるためには、新たな技術の導入による生産性の向上とともに、担い手の確保と育成が急務です。また、社会の変化を的確に捉えることで多摩産材の利用拡大を図り、林業の収益性の向上につなげていくことが重要です。
- ◆ 東京は木材の一大消費地であり、都内における国産木材の需要拡大を図ることで、東京を含む全国の林業振興と、森林循環の促進につなげていくことに期待が寄せられています。
- ◆ 林業や木材産業の関係者だけではなく、森林から恩恵を受けている都民や企業等も、森林が持続可能な社会の実現に果たす役割について理解を深め、木材の利用や森林整備への参画など、多角的な森林との関わりを通じて、森づくりの輪の一員となっていくことが求められます。
- ◆ このような視点から、以下の4つの基軸に基づく施策を展開していきます。

施策展開の基軸

基軸 1 森林循環を促進し公益的機能を高める森林整備

基軸 2 生産性と収益性の高い林業経営

基軸 3 多摩産材をはじめとする国産木材の需要拡大

基軸 4 都民や企業等による森林利用の拡大